

緑川ダム水源地域ビジョン公表資料

緑川ダム水源地域の活性化施策

- 緑川ダム水源地域ビジョン -

「緑川ダム水源地域ビジョン策定委員会」(以下、委員会)では、学識経験者、地域・流域 NPO 代表、水源地域住民代表、水源地域自治体、関係機関などを委員として、平成 14 年 12 月から平成 15 年 7 月にかけて委員会を 4 回開催し、水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスの取れた流域圏の発展を図ることを目的とした「緑川ダム水源地域ビジョン」(以下、水源地域ビジョン)を策定しました。

水源地域ビジョンの基本理念・基本方針は次のとおりです。
具体的な施策は後掲します。

- 基本理念 -

【人と森と川とうみ(湖)のつながりによる『緑川水源郷』の創造と経営】
「資源の共有と活用」 「交流・連携の育成」 「環境の保全・改善」

- 基本方針 -

ダム湖面・湖岸の利用促進

水源地域ネットワークの形成

水環境の保全・改善

森・農地環境の保全・復元

今後は、「緑川ダム水源地域ビジョン推進協議会(仮称)」を設立し、水源地域住民・水源地域自治体・関係機関・ダム管理者がそれぞれ役割分担を行い、基本方針に基づく具体的な施策を実施していきます。

問い合わせ先

緑川ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

国土交通省 緑川ダム管理所

TEL : 0964-48-0216

所長 林田 清成

管理係長 松山 兼二

緑川ダム水源地域ビジョン策定委員会名簿

カテゴリー	所 属	氏 名	備 考
委員 長	熊本大学 法学部 教授	有 吉 範 敏	学 識 経 験 者
委 員	野外教育研究所 IOE 所長	山 口 久 臣	N P O 代 表
	九州水環境ネットワーク事務局 局長	岡 裕 二	
	砥用活性化研究会 会長	鳴 瀬 信 一	住 民 代 表
	砥用活性化研究会	西 村 潤 次 郎	
	緑川流域 石橋インストラクター	井 澤 る り 子	女 性 代 表
	砥用町 町長	北 川 浩 一 郎	水 源 地 域 自 治 体
	砥用町教育委員会 教育長	熊 川 巳 紀 登	
	矢部町 助役	坂 田 道 治	
	清和村 収入役	福 田 幸 一	
	関 係 機 関	熊本県企業局 発電総合管理所長	谷 口 秀 夫
			矢 立 誠 一
		宇城地域振興局 振興調整室長	富 永 正 純
		上益城地域振興局 振興調整室長	松 永 正 男
			大 里 実
		国 土 交 通 省	緑川ダム管理所 所長
林 田 清 成			
熊本工事事務所 副所長	平 松 信 幸		
事 務 局	砥用町 企画観光課長	福 田 賢 二	地 元 自 治 体
	砥用町 企画観光課 観光商工係長	堀 川 和 広	
	緑川ダム管理所 管理係長	佐 藤 浩 成	国 土 交 通 省
		松 山 兼 二	

【凡例】所属に上下2名の記名がある場合、上段記名者は平成14年度委員（担当者）、
下段記名者が平成15年度委員（担当者）であることを示す

緑川ダム水源地域ビジョン策定委員会の開催状況概要

第1回委員会

- ・ 日 時 : 平成14年12月10日(火) 13:30~17:00
- ・ 場 所 : グリーンハイランド砥用・会議室
- ・ 議 事 : 「委員会の設置について」
「水源地域ビジョンについて」
「現地見学会」
「水源地域の概況と検討課題について」



現地見学会風景

【主な意見】

- ・ 水源地域の資源の掘り起こしを行う必要がある。
- ・ 水源地域周遊プランを作成して資源をネットワーク化すると魅力が増すと思う。
- ・ 遊休施設等を有効利用して、環境教育を含むプログラムを作成できる。
- ・ 実行体制と人材育成について、水源地域全体の人・ものをつなげていくことが重要と思う。
- ・ 水源地域の資源情報は、ダムを基点に発信することが考えられる。
- ・ 3町村の広域連携が重要になると思う。
- ・ ビジョン策定には、行政が常識にとらわれない対応をして、思い切った施策を打ち出すことが重要になると思う。



第1回委員会風景

第2回委員会

- ・ 日 時 : 平成15年2月6日(木) 13:30~17:00
- ・ 場 所 : 砥用町文化交流センター・大研修室
- ・ 議 事 : 「水源地域ビジョンの基本方針について」
「水源地域ビジョンの施策について」

【主な意見】

- ・ 施策を策定する際には実効性がある計画が必要である。
- ・ 取り組める施策を抽出し、次の展開につながる施策から取り組むのがよいと思う。
- ・ 水源地域全体で周遊ルート・体験プログラムをつくり、その情報はビジターセンターを整備して発信していくことが考えられる。



第2回委員会風景

- ・推進協議会設立までの期間を考えると、今年度中に中心となって施策の運営などを行う受け皿づくりを検討することが重要である。
- ・地元産品をブランド化して地域の経済力の増進を考えることも重要だと思う。
- ・水源地域全体の水域の水質改善は地域活性化にとって重要な課題である。

第3回委員会

- ・日時：平成15年3月18日(火) 13:30~16:00
- ・場所：砥用町文化交流センター・大研修室
- ・議事：「ビジョンの推進体制の検討について」

【主な意見】

- ・企業がスポンサーにつくくらいの魅力あるソフトの施策が必要だと思う。
- ・ソフト施策は、既存の水源地域のプログラムを活用すべきである。
- ・水源地域全体をコーディネートするNPOの設立が最も重要になるが、設立主体・手段等をどうするか早急に検討する必要がある。
- ・委員の民間代表が水源地域NPO創立準備を行う。
- ・水源地域の将来を見据えて、次世代を交えた人材の確保が重要だと思う。
- ・公共施設の運営に関しては、NPO等と協働で行うことも重要だと考える。
- ・今後、施策を実行する際に関係機関の関わり方等を検討したほうが良いと考える。



第3回委員会風景

第4回委員会

- ・日時：平成15年7月15日(火) 13:30~16:00
- ・場所：砥用町文化交流センター・大研修室
- ・議事：「ビジョンの承認、及び公表について」

【主な意見】

- ・森林の広益的機能の発揮を図るため、『水源涵養機能をもつ森づくり』という施策に、間伐等を実施し、あわせて広葉樹の植樹を推進するという表現を加えたほうがよい。
- ・『ダム湖の共有化』という施策では、NPOと流域住民を運営・活用主体に、『ビジターセンターの運営』という施策では、国を維持・管理支援にするほうがよい。

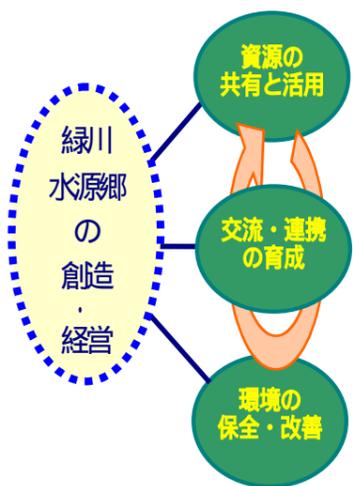


第4回委員会風景

ビジョン基本構想

【理念】

【基本方針】



ダム湖面・湖岸の利用促進

水源地域ネットワークの形成

水環境の保全・改善

森・農地環境の保全・復元

【施策】	ハード整備	ソフト整備	(関係者の役割)					開始時期
			国:国土交通省、	県:熊本県、	町村:水源地域3町村、	NPO:水源地域NPO、	住民:流域住民、	
	整備主体	整備支援	管理主体	管理支援	運営・活用主体			
【ダム湖面・湖岸の利用促進】								
■ 水面利用の常時開放	管理人の常駐による水面利用の常時開放				町村・NPO・住民・事業者		~5年	
■ 湖岸整備	泳げる内湖の整備	町村	国	町村・NPO・住民・事業者・教育機関	国	町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~5年	
	フローティング桟橋の設置	町村	国	町村	国	町村・NPO	~5年	
	水に潜る道の設置	国・町村		国・町村		NPO・住民・事業者・教育機関	~10年	
	安全なつり場の設置	国・町村		国・町村		町村・住民	~10年	
	ダム湖周遊ルートの整備	町村	国	町村	国	NPO・住民・事業者・教育機関	~10年	
	サインの設置	国・町村		国・町村		NPO・住民・事業者・教育機関	~10年	
■ 水面利用支援・促進	ライフセーバーの育成				町村・NPO・住民・事業者	~5年		
	ダム湖の共有化				町村・NPO・住民	~3年		
【水源地域ネットワークの形成】								
■ ビジターセンター設置	緑川ダム資料館をビジターセンターに整備	国・町村			NPO		~3年	
➢ サブビジターセンター設置	川の駅・石橋の駅の整備	町村		町村		町村・NPO・事業者	~5年	
	既存施設(道の駅「虹の通潤館」、道の駅「清和文楽邑」)をサブビジターセンターに整備	町村	国	町村	国	町村・NPO・事業者	~3年	
➢ 情報発信地設置	陶芸の里の整備	町村		町村		町村・NPO・事業者	~10年	
	柏川キャンプ場の整備	県・町村		町村	県	町村・NPO・事業者	~3年	
	既存施設(家族旅行村「砥用」、猿ヶ城キャンプ場、鮎の瀬交流館、青葉の瀬、清流館、井無田高原キャンプ場、清和高原天文台)を情報発信施設に整備	町村	国	町村	国	町村・NPO・事業者	~5年	
■ 回遊・周遊ルートの整備・活用	水源地域の周遊ルートの整備	町村	国	町村	国	NPO・住民・事業者	~5年	
	石橋めぐり周遊ルートの整備	町村	国	町村	国	NPO・住民・事業者	~5年	
	サインの設置	国・県・町村		国・県・町村		NPO・住民・事業者・教育機関	~5年	
	スタンプラリーのさらなる活用					町村・NPO・住民・事業者	~5年	
■ 緑川水源郷倶楽部創設	運営団体の設置	町村	国			町村・NPO・住民・事業者	~3年	
	ビジターセンターの運営				国	町村・NPO・住民・事業者	~3年	
➢ 体験プログラムの充実・展開	交流参加者の受け入れ体制の確立	町村				町村・NPO	~3年	
	リバーツーリズムへの新規メニュー提案	町村・NPO・事業者・教育機関				町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	
	グリーンツーリズムの充実と展開					町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	
	エコツーリズムの充実と展開					町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	
	森林ボランティアシステムの開発	町村・NPO・事業者・教育機関				町村・NPO・事業者・教育機関	~5年	
	冬季体験・学習プログラムの開発	町村・NPO・事業者・教育機関				町村・NPO・事業者・教育機関	~5年	
➢ 人材発掘・育成	水質問題の学習プログラムの開発	町村・NPO・教育機関				町村・NPO・教育機関	~5年	
	流域経営研究所の設置	町村・教育機関				NPO・教育機関	~10年	
	交流・連携のための学舎の設置	町村		町村		町村・NPO・教育機関	~10年	
	水源塾の創設	町村・NPO				NPO	~5年	
	ガイド・インストラクターの育成					県・町村・NPO・事業者・教育機関	~3年	
	水源地域の達人の発掘と活用					町村・NPO・事業者・教育機関	~3年	
	➢ 情報収集・発信	ITを活用した情報の収集・発信					国・県・町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~5年
		メディアや公的機関を利用した情報の広域発信					国・県・町村・NPO・事業者・教育機関	~3年
	➢ 製品の有効活用	流域産品交流の促進、地場産品の郷土料理活用					町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年
		産品の高付加価値化と特産品の開発	町村・事業者	県			NPO・事業者・教育機関	~5年
【水環境の保全・改善】								
■ ダム湖の水質改善	植物を利用した水質浄化	国			国	町村・住民・事業者	~5年	
	選択取水設備の活用(濁水対策)	国			国	国	~3年	
	曝気施設整備による水質浄化	国			国	国	~3年	
■ 流域各地での水質改善	農業・肥料の適正化					町村・住民	~5年	
	合併浄化槽設置の促進	町村			町村	住民	~5年	
	休耕地を水質浄化施設として利用	町村	国	町村	国	NPO・事業者・教育機関	~10年	
■ 水質改善についての啓発・PR	サインの設置	国・町村			国・町村	NPO・住民・事業者・教育機関	~10年	
	水質問題の学習プログラムの開発	町村・NPO・教育機関				町村・NPO・教育機関	~5年	
	一斉清掃の推進					国・県・町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	
【森・農地環境の保全・復元】								
■ 多面的機能をもつ森林(もり)づくり	間伐材や粗朶(ソダ)の利用	国・町村			国・町村	住民	県・町村・NPO・事業者	~10年
	水源涵養機能をもつ森林づくり	町村・事業者	国・県	町村・事業者		町村・NPO・事業者・教育機関	~10年	
■ 中下流域との人的交流・連携による森・農地保全	森林ボランティアシステムの開発	町村・NPO・事業者・教育機関				町村・NPO・事業者・教育機関	~5年	
	森と農地のオーナー・里親制度の設置	町村・NPO・事業者				町村・NPO・事業者	~3年	
■ 森・農地保全の保全・復元についての啓発・PR	サインの設置	国・町村			国・町村	NPO・住民・事業者・教育機関	~10年	
	グリーン・エコツーリズムの充実と展開					町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	
	一斉清掃の推進					国・県・町村・NPO・住民・事業者・教育機関	~3年	

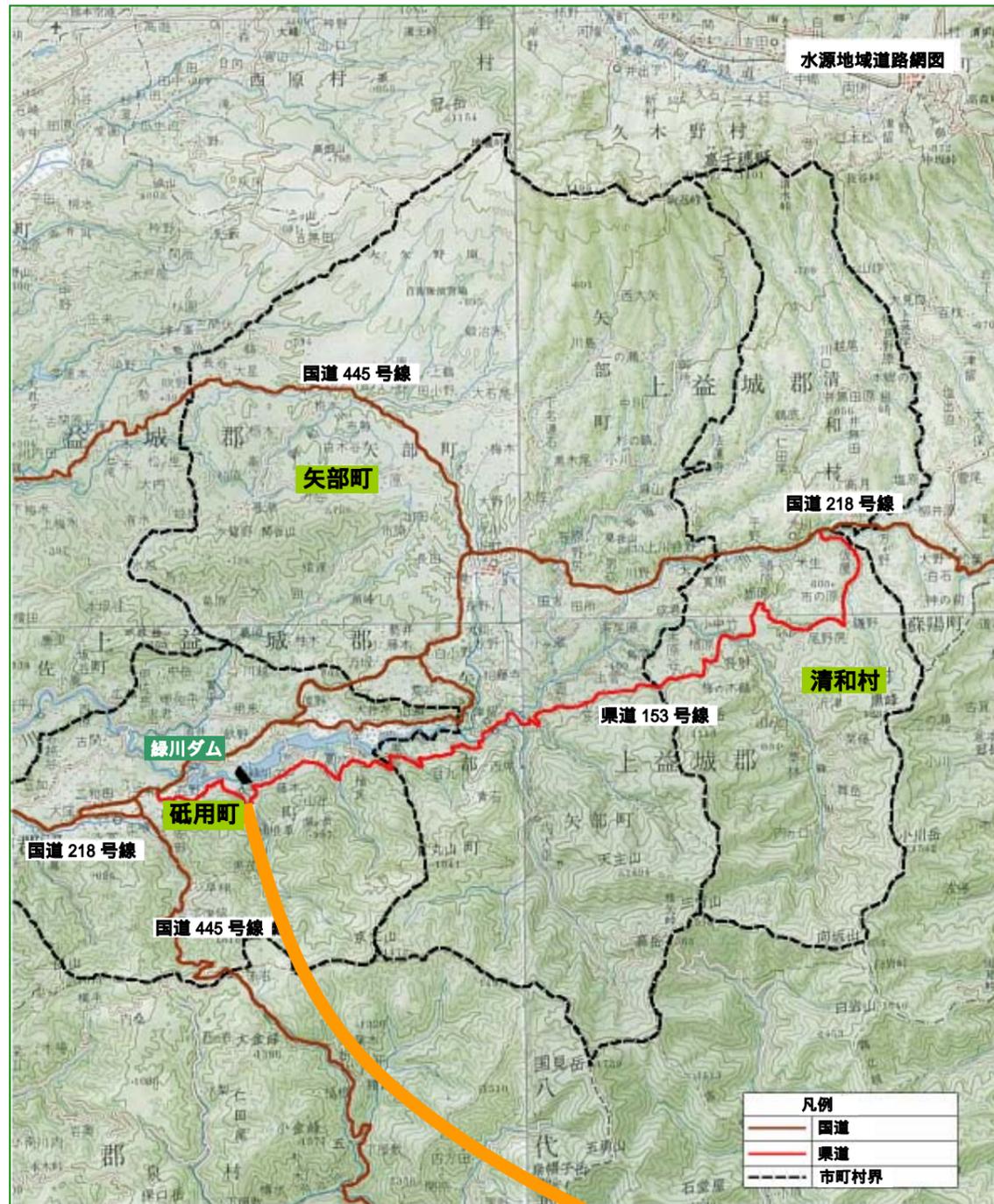
肥後みどりかわ湖周辺整備イメージ



ビジターセンター整備イメージ

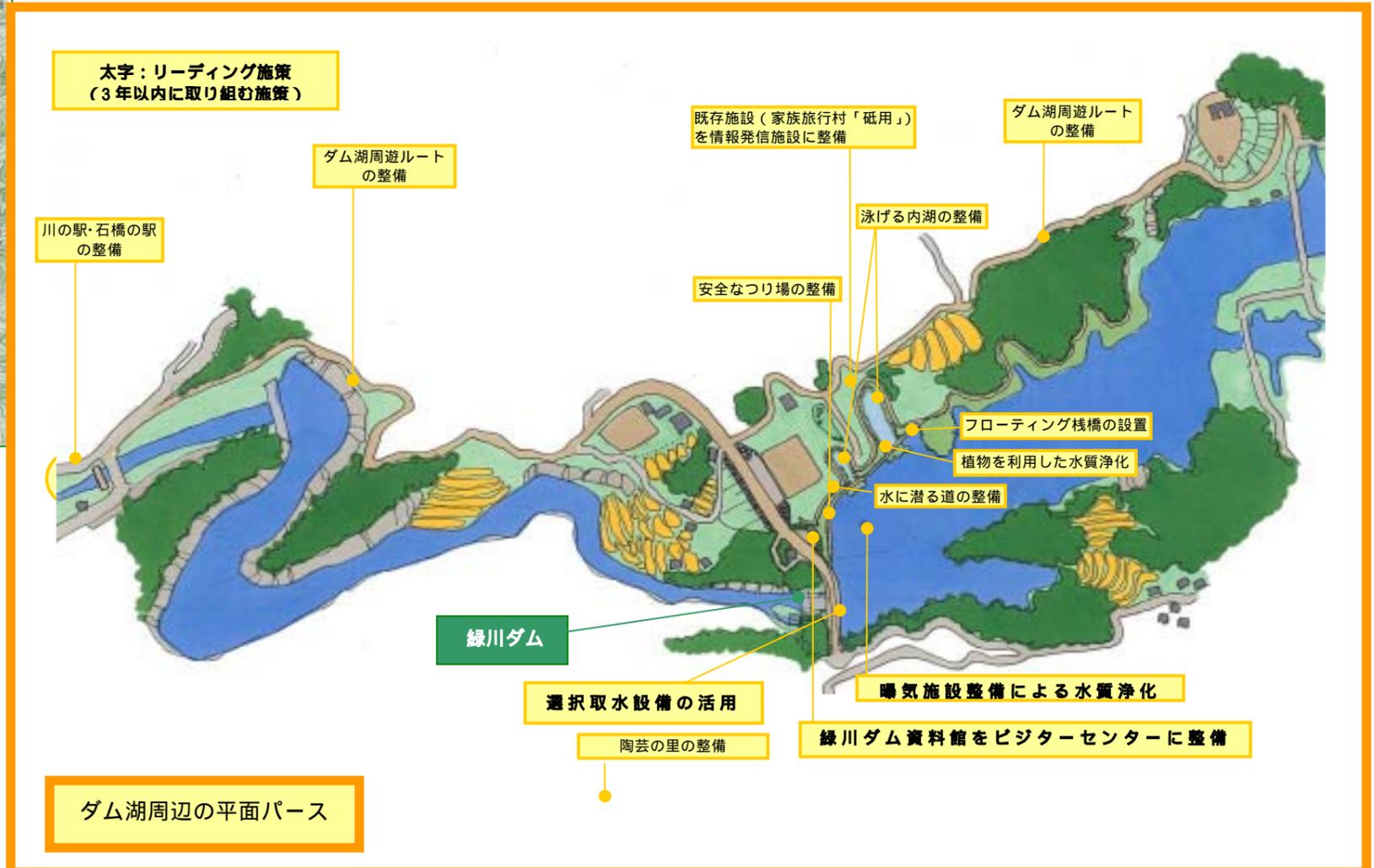


散策ルートの整備イメージ



陶芸の里の整備イメージ

拡大図

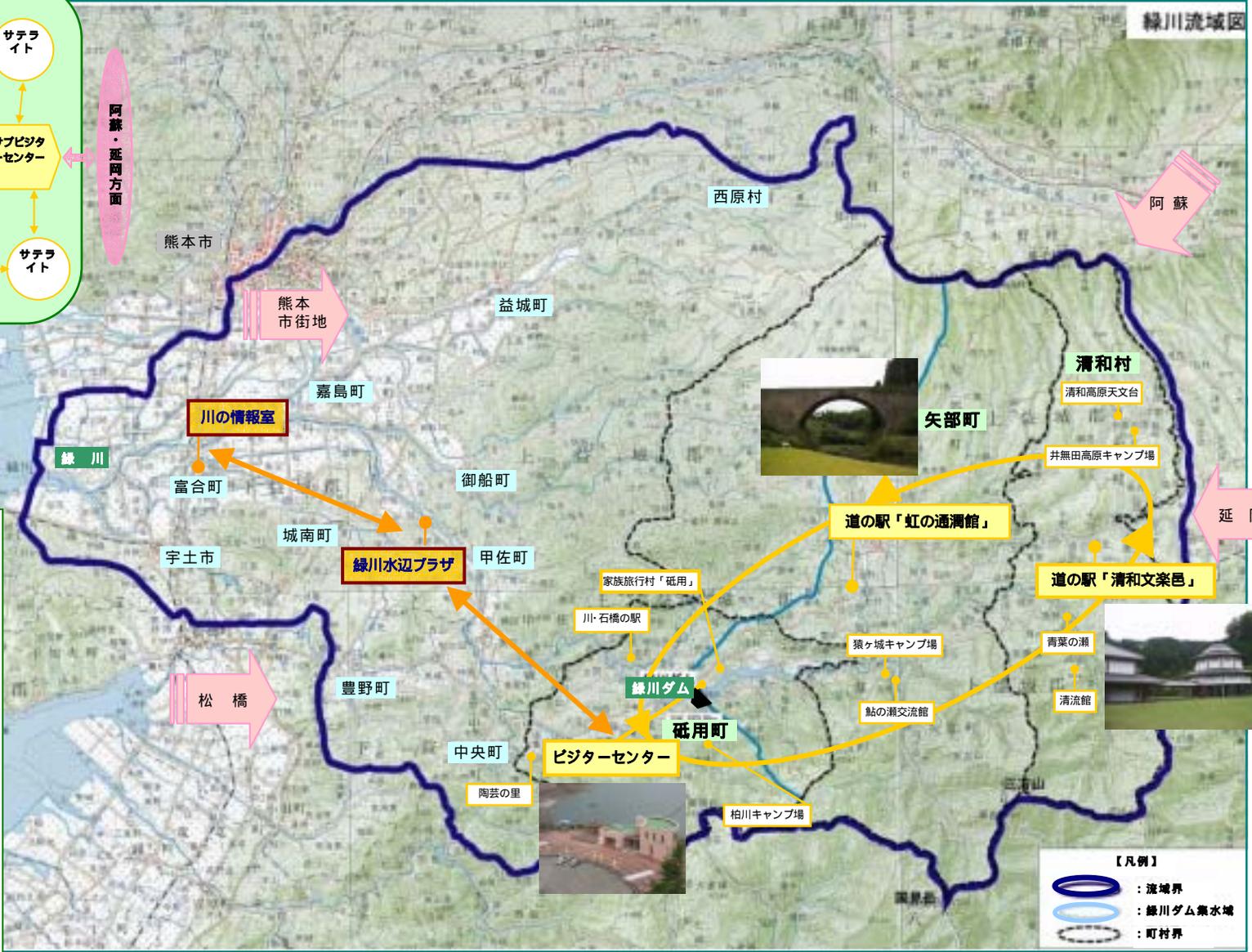
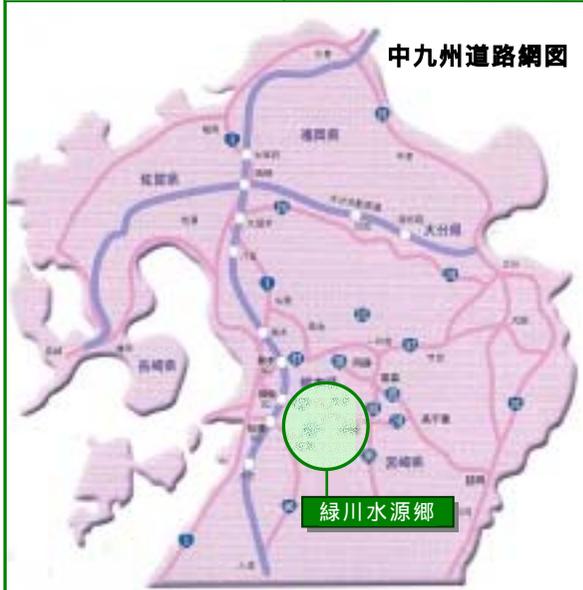
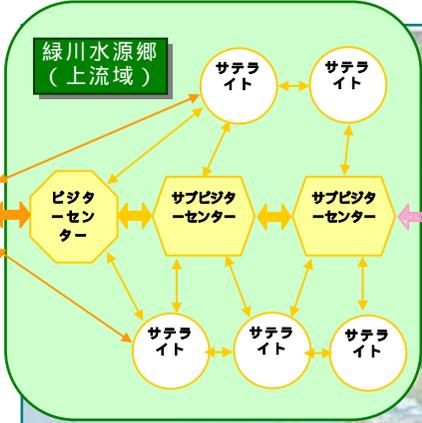


『緑川水源郷』広域ネットワークイメージ

流域情報発信拠点

水源地域の情報発信拠点
(ビジターセンター・サブビジターセンター)

水源地域の情報発信地
(サテライト)



- 【凡例】
- 流域界
 - 緑川ダム集水域
 - 町村界